

NPO 法人 住まいのホームドクター／設計者
460-0017 名古屋市中区松原 1-17-6 朝日軒ビル 3 階

HD ニュース

No. 85
2020. 6. 16

今後の予定

6/16 相談委員会 NET 委員会に変更

6/16 研修会 **コロナウイルスの影響により中止**

6/18 木造技術研究会

コロナウイルスの影響により中止

当面は、役員会・各委員会の開催は見送らせていただき、再開につきましては後日お知らせ致します。

ポスト「新型コロナ」社会を考える

理事長 滝井幹夫

「緊急事態宣言」が約 50 日振りに解除されて、当 NPO 法人の事務所のある 19 号線を走る車が日に日に増えて、昨今では「新型コロナ」感染以前と変わらなくなって来ました。

当 NPO 法人も役員会を始めとして、各種の会合の開催を見合わせて、「感染しない、されない」に努めて参りました。会員各位に於かれてはこの間お変わりありませんでしたか。また、政府のコロナ対策の目玉としての「全国一律 10 万円給付」は届きましたか。「アベノマスク 2 枚」は遅いと言っても、さすがに届いたことでしょう。

「新型コロナ」の特徴が未だ明確でなく、有効なワクチンが開発されておらず、第二波、第三波の感染の可能性が懸念されている現在、本ニュース 5 月号で渋谷副理事長が書かれていることも参考になりましたが、「自らの身を守り、他人に移さない」など、当分コロナと付き合っていかなければならないようです。

「新型コロナ」が瞬く間に世界中に広がった原因は、経済のグローバル化が進行し、「人」の移動によって世界的に拡散したことだと言われています。また、感染者や死者の多いアメリカやヨーロッパ諸国などは、グローバル資本主義・新自由・市場原理主義によって企業利益、効率優先が極端に迫り、所得格差の増大と医療など公的サービスが低下したことで、医療崩壊、社会的弱者に被害がより広がったと言われています。ポスト「新型コロナ」社会は、こうした負の側面を克服していかなければ、新たな感染症や大災害時に同じ轍を踏むことになるでしょう。コロナ禍によって経済的影響・被害は今後も増大し、企業倒産、解雇、収入低下などが懸念され、国や地方自治体の予算、政策も大幅な見直しが必要になるでしょう。

西尾会員が本ニュース 5 月号に「空き家問題」を書いて頂きました。私も 2 年ほど前に関連記事を書きましたが、その続報です。

私の住まいは瑞穂区の商業地域に有りますが、実態は戸建住宅と中低層共同住宅、昔からの個人商店・事業所が混在している地域です。そこに 13 階、14 階建てなどの分譲マンションが次々と建てられ、従前からの住民が反対運動を繰り広げましたが、実態と合わない用途地域の変更がされないと、決め手が無くマンションは完成しました。

最近になり再び建設ラッシュの様相を呈し、一件は幹線道路沿いで古くから喫茶店を営み町内の世話役を務め、テレビにも何回か取上げられた 4 階建て店舗併用ビルが解体され、東京のデベロッパーが 13 階マンションを建設予定、2 件目は、幹線から二本入った所の駐車場に 14 階建てマンションが建築中、これも東京のデベロッパーです。3 件目は由緒ある神社と戸建て中心の地域の 3 階建て住宅を解体して、10 階建てマンションを建設中、これは地元のデベロッパーです。4 件目は小さな 2 階建て個人商店を解体して 5 階建てマンションを建設中、これはハウスメーカーです。5 件目は、ある会社の 5 階建て社宅を解体し、10 階建てへの建て替えで、中堅ゼネコンが担当しています。

これらの地域は商業、近隣商業地域に指定されていますが、最近の 30~40 年の間に店舗や事業所は 3~4 割が閉店、廃業し、空き家の増大、人口の減少、高齢化が著しく進行している地域です。その一方では、商業地域なのに店舗は殆ど併設しないマンションが次々建てられています。

少子、高齢化が言われて久しく、ポストコロナの時代こそ、都市・住宅政策の見直しが必要だし、そのチャンスだと考えます。

昨今のコロナ騒動で三密を避けるとの趣旨でパソコンやスマートフォンの機能を使って打ち合わせや会議を行うオンラインミーティングが頻繁に行われるようになりました。これは元々備わっていたパソコンやスマートフォンの機能が今回大々的にビジネスで幅広く活用されるようになったもので、私もノートパソコンのWEBカメラを初めて使ってミーティングを行いました。正直言って十分な打ち合わせができたのかどうかピンと来ていないところもありますが、慣れていけばいずれは当たり前に入力できる時代になるのかもしれませんが。



「Microsoft Teams」JHPより

思い越せば昔の建築業界の会議というのは直接みんな顔で顔を合わせるのが当たり前、昼間からお酒が入ることもしばしばあるなど、会議としての成果が

出ているのかどうかよく分からない状態で、図面や書類は手渡し当たり前でした。ところが当時の勤め先の社長が、そんな前近代的ことをやっているのは時間の無駄と言って、成果品の原図を折り曲げて封筒に入れ、郵送するという荒技に出たことがありました。当然客先からはクレームがつき、この手は使わなくなりましたが。

その後建築業界もIT化の波がやってきて、パソコン導入からの図面のCAD化、各種書類の電子化、そして電子メールによるデータや情報伝達などが当たり前の時代になってきています。当初は「そんなもので設計ができるか！」と耳を貸さなかった人もたくさんいましたが、やがて時代が変わり、皆が受け入れるようになってゆきます。そしてそれらのIT自体も日々さらなる進化を遂げ続け、手書き図面と直接打ち合わせのみの時代からは想像もできない様相です。

これらの新しいものが取り入れられる時、従前のやり方の全てが新しい物に置き換わるのではありませんが、その枠組み自体が変化し、さらに想像していなかった別の付加価値が生まれ、その付加価値がいつの間になくってはならない物になってゆきます。オンラインミーティングもいずれは何か新しい付加価値とともに大きく変化を遂げるかもしれません。

